

## 有限会社 安富牧場が農林水産大臣賞を受賞 —平成30年度全国優良畜産経営管理技術発表会—

平成30年11月28日、第5回「全国優良畜産経営管理技術発表会」が開催されました。岡山市の有限会社 安富牧場の安富照人氏が、「地域・信頼・思いやり—消費者に届ける、信頼と安全の酪農を目指して—」と題して発表し、審査の結果、最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞されたので、その概要をお知らせします。

### ○経営の特色

#### ①自家育成を軸にした安定した経営

後継牛は100%自家育成しており、減価償却費を抑えつつ、経産牛1頭当たりの年間産乳量9,812kgと高い水準を維持している。また、性選別精液を利用することで計画的な牛群の更新と副産物収入の増大を実現している。

#### ②牛の健康第一の管理

「美味しいアイスは健康な牛の乳から」という姿勢で、牛の健康を第一に考えている。6次化に取り組み始めた際は無理せず頭数を減らし、手が届く範囲で堅実な酪農をしていた。近年は省力化を図りつつ順調に増頭している。

#### ③6次化による経営の多角化と所得の向上

6次産業化のパイオニアとして他の酪農家のモデルとなってきた。

新たに牛乳の販売も開始し、牧場で搾った牛乳を直接消費者に飲んでもらうことで、牧場のファンを増やす取組を行っている。

#### ④地域や消費者と連携した開かれた経営

地元の農家に堆肥を供給することで有機循環農業に関わるとともに、店舗内で野菜や花卉を販売している。アイスクリームの材料にも地元の特産品を取り入れている。また、酪農教育ファームとして、地域の学校の職場体験や個人の搾乳体験などを受入れている。

#### ⑤女性が活躍する経営

社長の母は、経理や労務管理を担当し、積極的に労働環境の整備を行ってきた。社長の妻は、酪農部門に携わりながら、イベント等を通して牧場のこだわりや自社商品の美味しさを伝えている。また、従業員の多くが女性で、アイスクリームのメニューや社内の福利厚生では多数の提案が実現している。

### ○審査講評

評価を受けたのは以下の6点です。

①経産牛の飼養頭数を維持するために、約40頭の育成牛を飼養している。また、フリーバーン牛舎の上方に広がる緩やかな傾斜地に妊娠牛を放牧し、足腰の強健な牛

を飼養している。

②TMRを自家で朝夕2回製造して、搾乳牛に給与している。乳頭洗浄機や発情発見システムを導入している。作業の標準化と衛生管理を徹底している。

③近隣の大規模稲作経営における15ha分の稲わらと、堆肥の交換を実施している。自ら堆肥の散布と稲わらの収穫調製を行っている。稲わらは乳酸菌を添加しラップして、育成牛や乾乳牛に給与している。

④フリーバーン牛舎では、戻し堆肥に納豆菌を散布し、耕耘して発酵を促進させている。堆肥舎は、副資材にバークやコーヒー粕を活用し堆積発酵させている。

⑤56万kgの生乳生産のうち、4万kgがアイスクリーム製造に用いられている。牛乳プラントを新たに導入し、年間3.6万kgの牛乳製造を目標にしている。

⑥正社員6名、常勤パート12名、アルバイト7名の合計25名のうち、22名が女性のスタッフである。経営主の母親は会計を担当し、夫人は直営店二店舗への乳製品の配達や店舗運営のチェックを担当している。

